



令和 6 年 11 月 15 日

大学院生各位 <ハイブリッド対応に変更しました>
To All Graduate Students

2024 年度
大学院 基盤医学特論 開講通知
Information on Special Lecture Tokuron 2024

題目：「糖鎖修飾による Notch 受容体機能の制御とその破綻によるヒト疾患」

Title: “Regulation of Notch receptor function by glycosylation and human diseases caused by its disruption”

講師：竹内 英之 教授

静岡県立大学薬学部・大学院薬学研究院 生化学講座

Lecturer: (Hideyuki Takeuchi, Ph.D.)

(Dept. of Biochemistry, School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka.)

日時：令和 6 年 11 月 22 日（金曜日） 17 時 00 分～18 時 30 分

Time and Date: 17:00 ~ 18:30, Friday November 22, 2024

会場：ライブラリ東&西（医系研究棟 3 号館 6 階）講義形式：対面&Teams ウェビナー
Room: Library East & West (6th floor, Research Bldg. 3)

Abstract

糖鎖は、あらゆる細胞の表面に存在し、細胞間のコミュニケーションに寄与している。タンパク質の糖鎖修飾は、アスパラギン結合型の *N* 型糖鎖と、セリンやスレオニンに結合する *O* 型糖鎖に大別される。多細胞生物の発生や成体における細胞の運命決定を担う Notch シグナルは、*O* 結合型の糖鎖、すなわち、*O*-フコース、*O*-グルコース、*O*-GlcNAc 修飾などの受容体自身の糖鎖修飾によって、その機能が制御されることが分かってきた。これらの糖鎖修飾を担う糖転移酵素遺伝子群もほぼ同定され、その生合成のメカニズムについても興味深い知見が得られつつある。さらに、*O*-グルコース転移酵素遺伝子の変異に起因する肢帯型筋ジストロフィーなど、糖鎖の生合成に寄与する糖転移酵素遺伝子の変異や発現異常がヒトの病態に繋がることも明らかとなってきた。本講義では、Notch シグナル制御における糖鎖修飾の重要性について、私たちの研究の最新知見を紹介しながら、概説させていただく。

言語：日本語 Language: Japanese 共催：iGCORE

関係講座・部門の連絡担当者：分子細胞化学（生化学第二）岡島徹也 内線 2070

Contact: x2070, Department of Biochemistry II

事前の登録が必要です。 Registration is required.



iGCORE
Institute for Glyco-core Research